



## 低炭素杯2015

全国の地球温暖化防止に関する地域活動をご紹介!!

# 低炭素杯2015

今年で5回目!!

### 低炭素杯とは…。

次世代に向けた低炭素社会を構築するため、学校・家庭・市民団体・NPO・企業などの多様な主体が全国各地で展開している地球温暖化防止に関する地域活動を報告し、学びあい、連携の輪を拡げる「場」として2011年から毎年開催されています。全国1,730団体から選ばれたファイナリスト39団体が、4つの部門(地域活動、企業活動、学生活動、地域エネルギー)のプレゼンテーションを行い、入賞団体には環境大臣賞をはじめとする各賞が贈られました。

今回は低炭素杯で最優秀賞を受賞した北海道の下川町と、長崎でもちゃんぽん等で麺食が多いことから麺繋がり、興味がわいた、香川県の「うどんまるごと循環コンソーシアム」をセンタースタッフの中村と中島が取材しました。

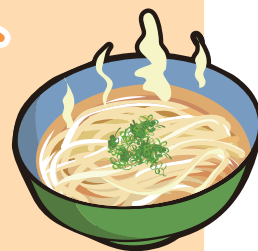


中村が取材

「うどん県」という地域の特性を活かされた特徴的な取り組みを取材してきました!

企業や市民、行政が連携した共同団体「うどんまるごと循環コンソーシアム」

## 香川県発 うどんまるごと循環プロジェクト



香川県の名物といえばもちろん「讃岐うどん」。香川県のうどん消費量は全国平均の2倍強で、1人当たり2日に1食を口にしているという計算になる程の人気です。その一方で、サイズの不揃いや茹であがって時間が経ちすぎてしまったことから出る「廃棄うどん」が問題となっていました。そこで、この廃棄うどんを新たなエネルギーとして活用しようと、企業と市民、行政が連携したプロジェクトが立ち上がりました。

この課題に立ち上がったのが、地元高松の産業機械メーカー「ちよだ製作所」。ちよだ製作所は、酵母の力で廃棄うどんから化石燃料の代わりとなるエタノールを抽出するプラントを開発し、さらにエタノールを抽出した残りカスを発酵させ、発生したメタンガスを燃やして発電機を回す「うどん発電」に成功しました。発電の他にも、抽出後の残りカスから液状の肥料を作り、うどんの原料となる小麦や薬味として使うねぎの畑にその液肥をまいているそうです。

「うどんてうどんを茹でて、うどんをつくる」サイクルを構築するため、共同体で立ち上がったこのプロジェクト。そのメンバーでもあり、香川県地球温暖化防止活動推進センターの福家さんは、「うどん県として、ブランド力の高い讃岐うどんを、余すことなく活用し、新たな地域のパワーにしたい」と熱く語っていました。地域性が高く、うどんのようにコシのあるプロジェクト、今後もさらに地域に広がるといいですね。



うどんまるごと循環コンソーシアムの方々